

しじょうきんびどのびへんじ
四 条 金 吾 殿 御 返 事

御書新版 1554
御書全集 1143
5行目〜6行目

しじょうしゆゆらくごし
(衆 生 所 遊 樂 御 書)

く 覚
苦をば苦とさととり、 楽をば楽とひ開

く ちらく おも
らき、 苦楽ともに思い合わせて南無

打 唱 居
妙法蓮華経とうちとなえいさせ給え。

じじゆほうらく
これあに自受法楽にあらずや。

ごうじよう しんりき 致 たま
いよいよ強盛の信力をいたし給え。

語句

じじゆほうらく
自受法楽

みずか ほうらく
「自ら法楽を受く」と読む。法楽とは仏の覺りを享受する最高絶対の幸福のこと。妙法の功德を自身で享受すること。

通解

く ちらく さと らく ひら
苦を苦と覺り、 楽を楽と開き、

く ちらく おも あ
苦も楽もともに思い合わせて南

とな ぬ
無妙法蓮華経と唱え抜いていき

じじゆほうらく
なさい。これこそ自受法楽では

ないか。

ごうじよう しんりき っ
ますます強盛な信力を尽くし

ていきなさい。